“ものづくり・匠の技の祭典２０１９”に出展して

全技連マイスター会

今年は《漆芸と蒔絵のコラボ：会津漆器》

- 展示：金属蒔絵・金箔押・螺鈿技法を併用した漆器作品の展示
- 実演：木工漆・蒔絵・貝螺鈿技法と工具の使用法解説、製作実演
- 体験：漆塗り盆への人造漆,金・プラチナ・貴石粉を使った「蒔絵・絵付け体験」（体験料¥1,500.-）

INITIATION Atelier de peinture sur laque

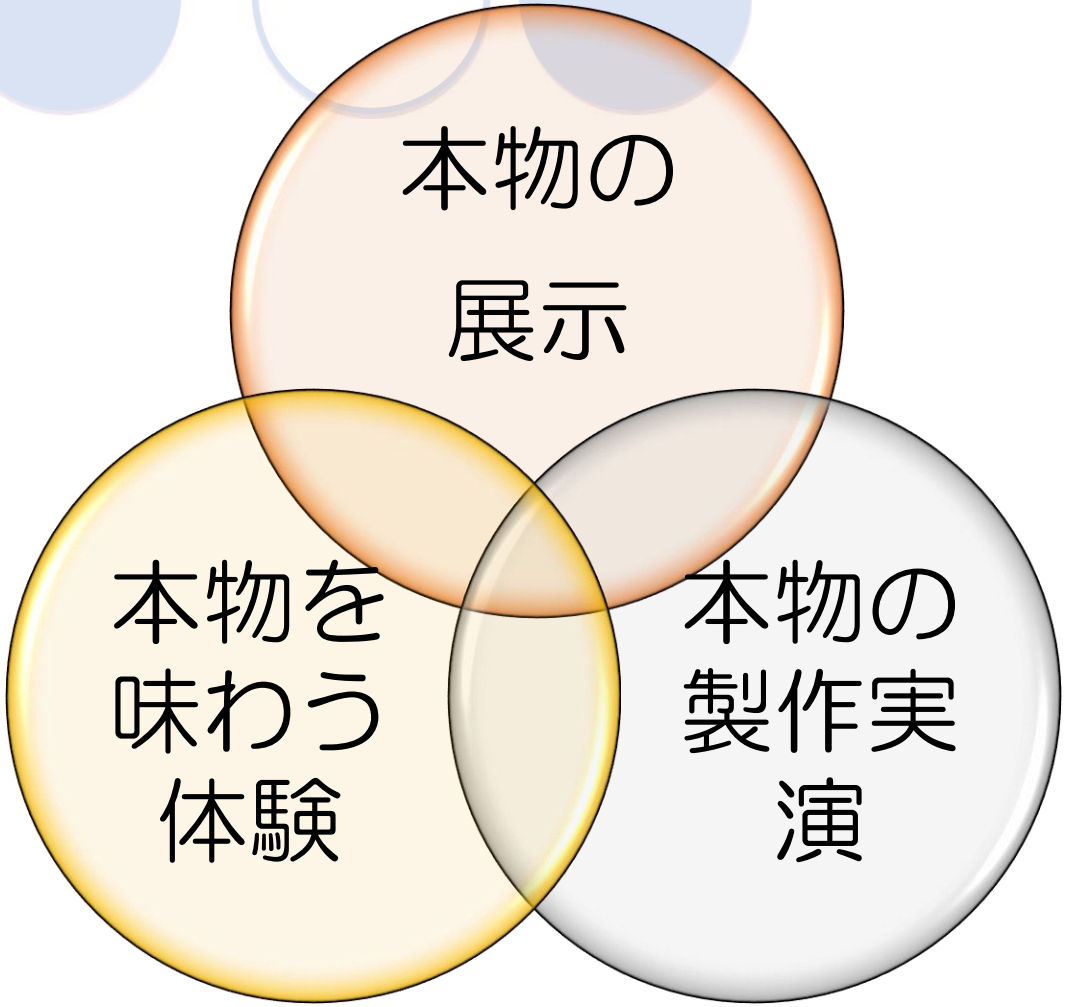
L'art du maki-e

Des coupes à saké, réalisées par l'artiste japonais.

出展の基本コンセプト

技能の粋(＝本物)を心ゆくまで味わってもらう事こそ

「ものづくり」の魅力を伝えることが出来ること！



展示・実演・体験コーナーのスナップ

未来の名工とのコラボレーション

今回のスタッフと実演風景

それ、分けてもらえませんか？

漆が乾くまでの1週間は、触れるとかぶれるんで、今、差し上げるのは一寸…

出展者のプロフィール

曽根　英昭

◆曽根　蒔絵工房　主宰
◆会津漆器技術後継者養成所蒔絵科を終了の後、会津蒔絵師　曽卓夫に師事、加賀蒔絵師　池田　喜一に師事
◆中央職業能力開発協会　中央技能検定委員　委嘱
◆日本伝統工芸士会作品展　入選
全国伝統的工芸品公募展　入選
全国漆器展選考会　優秀賞
◆2001.9　ニューヨーク・ワシントン・アトランタにて　蒔絵展示・実演・体験
2014.11　全技連「匠の技・沖縄フェア」にて　蒔絵展示・実演・体験
2017.12　フランス・コルマール市にて　蒔絵展示・実演・体験
2019.7　ＴＯＣ展示場「匠の技の祭典」にて　蒔絵展示・実演・体験

出展者のプロフィール

坂内　憲勝

◆ぬっぺ会（漆工芸）主宰
◆日展会友、日工会評議員、会津総合美術展副会長
◆1985　日展初入選（以降入選30回）
1998　漆立体パネル「森の譜」身障施設アゲッセに設置
2004　日工会展　日工会大賞受賞
千葉県茂原市美術館にて「坂内憲勝漆芸展」開催
2006　画廊「ミューズ」にて　個展　開催
2018　第29回日工会展にて　文部科学大臣賞　受賞
2019　東京都主催「匠の技の祭典」全技連マイスター
会ブースにて、会津漆器蒔絵実演

今回の参加を振り返って

【本　物　の　展　示】

◎多くの見学者に、関心を持ってもらえたのではないか？
(展示作品の購入希望も多く、高価な非売品への強い購入要求に、止む無く応じたケースも出てきたほど)

⇒会員が製作した「本物を展示」するインパクト

◎外国人の関心が高かった(カタール・米国フロリダ・仏国ローザンヌ・豪州NSW・香港)

◎香港での展示会のオファー（会期後、会津若松市の工房で交渉したが、条件が折り合わず、結局実現しなかった。）

⇒これらの方々の質問は、極めて複雑・専門的な内容が多い。高度な知識・通訳力が必要。

◆「本物の展示」

・技術の粋を、多くの人々に知ってもらうためには有効な手段
・このためには、多種・多数の作品をストックしておく必要がある
・展示品を、長期間かけて、作りだめする必要がある

◎全技連マイスター会会員の業態

個別受注・1点製作・現場施工の業態が多く、作りだめ・店頭陳列販売の業態は少ない。

・全技連マイスター会として、数多くの「本物の展示」に対応できる業態は限定的である。
出展適正業態を慎重に考慮する必要がある。

【本物の製作実演】

◎熱心に見入る見学者が多数いた。
◎見学者の多くは，フリーハンドで作画する技量に魅せられた様子。
◎実演製作品を求める見学者も目立った。
◎国内産漆の生産量、作画用筆先の材料、木地から漆器までの製作期間等、かなり専門的な質問も多かった。

◎漆器は埃を嫌う・螺鈿細工は細かい製作工程が多岐にわたる等の制約条件が多く、今回は、「蒔絵」の最終工程：漆で原画を描き、金粉等を蒔き作画する工程　だけの実演にとどめざるを得なかった。

【本物の製作実演】

・その道を代表する技能者が製作する姿を見る事は、見学者の心を打つ。

・製作品の材料・製作方法・完成に至る工程を直接目にする事で製品の成り立ちが、よく理解できる。

・「本物」を作って見せる手法は、ものづくりの魅力を伝えるうえで、有効な手法。

多くの工程を目の当たりにし、本物の製作品を手にしてもらうため、「本物の製作実演」実施に向けての制約条件克服策を工夫する。

【本物を味わう体験：未来の名人とマイスターのコラボ】

◎体験参加者が、当初想定した人数の３０％増（3日間で24名→32名）⇒準備した漆器盆が全てはけ、それ以上の希望に応じられなかった

◎本物の材料の使用が、体験者の強い興味・関心を引いたようだ
（漆塗り盆、蒔絵材料としての金粉・金箔等）

◎世界で唯一の作品を制作する喜びが感じられた
（あらかじめ用意した漆塗り盆に、体験者が蒔絵を施し、仕上げ段階で、全技連マイスターである講師が手を加えることにより、体験者ごとの作品が完成）

◎製作工程・材料の工夫により、小学生以上であれば、未経験者でも容易に取り組むことが出来、作品完成の達成感が味わえたのでは？

◆「本物を味わう体験」

●本物の材料を使い体験を行うことは、蒔絵を通してものづくの魅力を体感するうえで、有効な方法

●製作工程の簡素化・材料の工夫により、より多くの体験希望者を生み出すことになる

⇒・切り絵型紙の活用：あらかじめ、友禅染の手法を参考に、切り絵型紙を用意（これにより、誰でも蒔絵の製作が可能）

・人造漆の活用：蒔絵を定着させる材料として、かぶれのない人造漆を使用（これにより、誰でも蒔絵の製作が可能）

◎本物との共同作業：本物の全技連マイスターとともに作業をすることにより、全技連マイスターの技量の高さを素直に認めることが出来る。

　また、全技連マイスターとの共同作業により、唯一の作品を作る喜びを実感することが出来る。

　さらに、全技連マイスターが製作した「本物の漆塗り盆」に、参体験者自身が「本物の材料」を使って制作した「本物の会津塗漆器・蒔絵作品」を、製作体験の成果として手にすることは、「ものづくりの作品を大切にする」意識を育てるもの。

◇高度技能者と体験参加者のコラボが成り立つためには、製作工程の工夫改善・材料費と参加費のバランス・十分な数の指導者の確保が必要

◇課題は多いが、コラボの意義は大きい！

まとめ：次年度以降の取り組みの方向

◆次年度は、今回の出展コンセプトを継続する
　⇒「本物の作品展示」「本物の製作実演」「本物を味わう体験：体験参加者と高度技能者とのコラボレーション」の3セクションの継続

◆各セクションの工夫・改善
　⇒より「本物」の素晴らしさをアピールできる手法の工夫

◎「匠の技の祭典に係る協定」終了に伴い、再来年度以降の取り組みについて、検討する

「ものづくり・匠の技の祭典」に係る全技連マイスター会と一般社団法人東京都技能士会連合会との協定書　（平成平成28年6月15日　締結）

ご清聴　有難うございました

おわり

全技連マイスター会